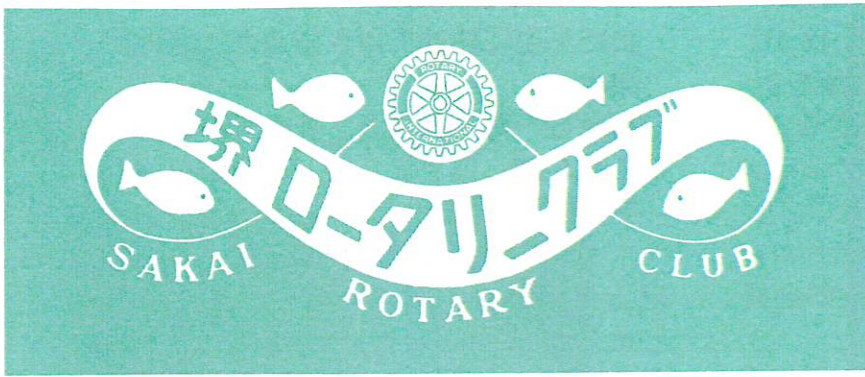


SAKAI ROTARY CLUB WEEKLY BULLETIN



第2640地区

創立 昭和26年(1951)2月16日
 例会日 毎週木曜日12:30
 例会場 ホテル・アゴーラリージェンシー大阪堺3F
 TEL (072) 224-1121
 〒590-0985 堺市堺区戎島町4-45-1
 事務所 ホテル・アゴーラリージェンシー大阪堺8F
 TEL (072) 238-3250
 FAX (072) 232-3711
 会長 林 豊之
 幹事 木 澤 憲一
 会報担当 田 内 潤



イマジン ロータリー

2022-23年度国際ロータリー会長
ジェニファー・ジョーンズ

四
つ
の
テ
ス
ト

言行はこれに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

<https://www.sakai-rc.jp/>

<http://www.rid2640g.com/morimoto/>

本日の例会

第3445回例会 (10)2022年9月15日

- 例会ソング「今日も一日」
「月」
- 卓 話
「自転車で作る健康的な暮らし」
- スピーカー
(公財)シマノ・サイクル開発センター
シマノ自転車博物館 神保正彦氏
- 紹介者 高橋明会員

前週の例会

第3444回例会 (9)2022年9月8日

- ガバナー公式訪問
 例会ソング 「限りなき道ロータリー」
 「幸せなら手をたたこう」
 卓 話 「ガバナーアドレス」
 スピーカー RI第2640地区
 森本芳宣ガバナー



出席報告 会 員 25名
 ZOOM 1名
 ゲスト 3名
 ゲ ス ト ガバナー 森本芳宣氏
 ガバナー補佐 丸山孝明氏
 堺 RAC 会長 大場聖士氏

次週の例会

第3446回例会 (11)2022年9月22日

- 卓 話
「がんに対する重粒子線治療」
- スピーカー
大阪重粒子線センター
理事長 高杉 豊氏
- 紹介者 田内潤会員

出席率 90.91% (8月18日)
乾杯 森本ガバナーのご健康を祈
念致しまして乾杯をさせて頂
きます。

会長の時間

○今月の記念日のお祝い
代 表 広瀬幸次郎会員

○本日のゲストの方々へ来会お礼。

○会長のお話。

幹事報告

- 本日の開催行事
 - ・プログラム委員会 12時～
- 本日の配布物
 - ・堺ローターアクトクラブ「チャリティーバザー献品のお願い」
 - ・ガバナー月信 No.3 (卓上)
- 連絡事項
 - ・本日の乾杯のワインは、ノンアルコールをご用意致しております。
 - ・本日も検温、アルコール消毒、マスクの着用のご協力よろしくお願い致します。
 - ・例会の食数の参考に致しますので、次週以降で欠席がわかっている方は、出席版に黄色のシールを貼っておいて下さい。又、ホームページの会員ページから例会、各委員会等連絡事項が可能となっておりますので、ご利用よろしくお願い致します。

委員長報告

- 永井青少年アクト委員長より、今年度堺ローターアクトクラブ会長大場聖士様のご紹介。
大場ローターアクトクラブ会長より、堺まつりチャリティーバザー開催のお知らせと献品のお願い。

ニコニコ報告

- 林豊之会長より、森本ガバナー様、丸山ガバナー補佐様、堺 RAC 大場会長、本日はお越し頂きありがとうございます。
- 広瀬幸次郎会員より、結婚記念日にきれいなお花を送って頂きありがとうございます。
- 大澤徳平会員より、計35日の入院中、

田内先生に助けて頂きました。感謝感謝！

- 福井隆一郎会員より、森本ガバナーようこそお越し頂きました。ご活躍をお祈り申し上げます。

以上それぞれニコニコ箱へご寄付頂きました。

ありがとうございました。

ニコニコ箱	4件	19,000円
累 計		209,000円

堺ローターアクトクラブ例会のお知らせ

第2例会

9月21日(水) 18:30～

於：方違神社

青少年アクト委員会より

委員会だより

(公財)ロータリー米山記念奨学会より、堺ロータリークラブへ第68回目の米山功労クラブ証書を頂きました。



9月のロータリーレート

1ドル→139円

ご協力よろしくお願い申し上げます。 R財団委員会より

卓 話

「ガバナーアドレス」



国際ロータリー第 2640 地区

2022-23 年度 ガバナー 森本芳宣

私の年度においても新型コロナウイルスの影響により国際協議会はバーチャル研修となりました。(2022.2/7~2.15)

R I 会長ジェニファー・ジョーンズさんはロータリーの歴史で初めての女性会長です。

テーマは「イマジン・ロータリー」
～大きな夢をかなえたロータリーを想像して～

また、会長は「ストーリーを発信しよう」と言われています。彼女自身がロータリーの力によって強力な人脈が出来、年月を超えて世界がつながったストーリーを2つ示されています。

私たちには皆夢があります。
ロータリーのような団体がポリオ根絶や平和の実現といった大きな夢を抱くならそれを実現させる責任は自分たちにある。それは未来を描くことです。

ポリオのない世界、みんなが水を使える世界、疾病のない世界、すべての子供が読むことのできる世界を想像してください。やさしさ、希望、愛、平和を想像してください。だからこそ「イマジン・ロータリー」がテーマとなると説明されています。

私は R I 会長が示されたテーマのロゴがわかりやすいと思われまますので説明します。



このロゴには各所に深い意味が込められています。

「円」は互いにつながっていることを意味しており、「7つの点」は人を表すと同時に、ロータリーの七つの重点分野を表しています。丸と点を一緒にすると航路を示す星、つまり私たちの道しるべになります、その下の太い線はいわゆる「掘り出し棒」でロータリーの会員にとって物事を成し遂げる道具です。

色は、紫は「ポリオ根絶」、緑は重点分野「環境」、白は私たちの中核的使命である「平和」を表しています。

私の基本方針として「行動し実践することにより“ロータリーの輪”を広げよう。」としました。

私自身世界でいいことをしている人たちの応援をしたいという意識の中で寄付をして10数年経ちましたが行動し実践する事にも力を注ぎたいと思います。しかし、いま世界が七つの重点分野の「平和の推進」「地域経済の発展」「疾病との闘い」「環境」、ほかの3分野にも及ぶと思いますが、コロナウイルスとウクライナ紛争によってロータリーだけでない重点分野になっています。

コロナウイルスの終息、ウクライナ戦争終戦による世界平和、物価高騰よりの安定化、脱炭素（環境）社会の再転換はまだ見えませんが、2640地区で私が行動して実践

することはまず地区の活性化だと考えます。活性化のためには会員を増強する必要があります。

今会員数が1,600人(65クラブ)前後となっています。3年で200人余(1年あたり数十人)減少しています。コロナの影響もあるでしょうが、日本のロータリアンはこの1年で増加しています。

減少を食い止め、増加するためにはポイントはD. E. I (多様性、公平さ、インクルージョン)になると思います。

私は2640地区で多様性を考えるとき、女性会員はもちろん年齢幅を大きく取ることが大事です。年齢が若い人だけでなく、80歳以上で青春時代の人も多くおられます。女性も含め幅広い年齢の会員が増強されたクラブが増えることを期待します。

(9月8日例会にて)

大阪府立大学留学生後援会閉会について

大阪公立大学副学長 松井 利之
長年、会員の皆様から多くのご支援で大阪府立大学留学生をサポートする各種事業を行ってまいりました本後援会は、2022年3月末をもって閉会となりました。

あらためて、長年の皆様からの温かいご支援に厚くお礼を申し上げます。

本会の残高は、大阪公立大学・高専基金へ全額を移管し、留学生の支援事業につぎまして、今後、大学の事業「外国人留学生国際交流事業」として実施することとなりました。本学で学ぶ外国人留学生の国際交流事業のために使わせていただきますので、引き続き、ご支援いただけますようお願い申し上げます。

—2021年度大阪府立大学留学生後援会 奨学生レポート—

これからも府大生として

頑張っていきたい!

張 政

(人間社会システム科学研究科 人間社会学専攻
博士前期課程 2年)

多様な分野に触れ、学術の世界を窺い知りました。社会科学のいろんな議題に取り組む、社会学史から具体的な公共性とは何かを紹介する講義を受け、歴史を辿りながら、現実の社会議題を議論するレポート書く、自ら文献を読む力、情報を組織する方法、論点の絞り方を磨いていました。そして調査実習でフィールドに出る、特定の人たちの話を聞き更に一緒に生活することより、違う境地にいる人々を知ることは私に深く影響を与えました。日本の近代を歴史文献から知り、ジェンダー視点から教育をみる、福祉から政治を考える・・・書ききれない論題に学際に触れました。

たくさんの「文化の旅」に出ました。日本に限らない言葉や文化を知らない土地で、人と出会い話し合い、いろんなことから考えさせられました。新型コロナを極めて控えている生活の中で出てきました。人間関係の在り方は、ローカルのみに限られていない答えが出てきたが、ローカルの領域からしか獲得できない感情とお互いを支えることの重要性も「今が戻れないノーマルの日常生活」の影から出てきて顕在的になりました。この様々なつながりはいうまでもなく大学生活で得たもっとも貴重な宝であります。これから、大学院卒業後は、国際的な相互理解と友好の懸け橋となれるように、日本で就職したいと考えています。質的調査をしてきた経験と学域時代に学んだ情報学の知識を活用できるソリューションエンジニアとして、社会科学のリサーチ力を発揮し、具体的なプロジェクトに携わることによって持続可能な社会の実現を目指します。そして、多言語と多文化に馴染んできた経験を社会に還元し、国際協力機関に働ける素質を身に付ける方向へ努力したいです。

将来的に地球的視野をもって国際社会の平和のために尽力することを目指しています。